

2 学期終業式 校長講話

1年8か月前、戦争のない平和な時代という希望と期待のこもった「令和」のスタートから、たったこれだけの間で、ウイルスとの戦争のような1年間を過ごすことになった令和2年という年でした。皆さんが立派に社会参画できるころには、「記憶と記録に残る令和2年だった」と思い出として語れるようになってくれることだけを、今はただ願うばかりです。コロナウイルス感染予防対策のみに明け暮れてしまった年であったかもしれませんが、そうはいつでも人生でたった一度しかない皆さんにとっての2020年は、どんな年であったでしょうか？

皆さんの2学期の学校生活において、いくつかの素晴らしい姿を見聞きすることができ、とても嬉しく誇らしく感じています。1年生では、自ら考えて積極的に行動する姿をたくさん見ることができました。生徒会役員が主体となり自分達で発案し、HRの時間をもらって学年レクリエーションを企画し親睦を深める会も計画してくれましたね。どうしたら学年・学校をより良くすることができるか、自主的に企画し積極的に動いた姿は、先生方もびっくりし、今後の学年の姿を頼もしく感じました。また、誰から言われることなく、自分達の学習する環境をきれいにしたいと放課後自ら講義室の雑巾がけを行っていた生徒もいました。このような姿が、あちこちで見られる、そんな学校でありたいなととても嬉しく思った出来事でした。2年生は、今年度なかなか思うように活動できなかったクラブ活動において、須坂東高校の、元気で、粘り強くあきらめない強い姿を発揮し、各部活動の大会において、優勝あるいは上位の成績を収めることができました。この姿がぜひ学校生活全般に広がっていくことを期待しています。3年生においては、コロナ禍でさまざまな活動が思うようにできなかった中でも、生徒会が中心となった素晴らしい文化祭を実施することができ、先日は皆さんが制作した万羽鶴の作品を福祉施設グリーンアルムさんに寄贈したことで、新聞での報道や、感謝状までもいただきました。生徒会の伝統を上手に引き継ぎながら新しいことに挑戦した皆さんの姿はとても輝いていました。そんな力が進路の結果につながっている現象も見え、国公立大学、難関大学への合格をはじめ皆さんの希望の進路の実現へと成果をあげていることを嬉しく思っています。そして学校全体としては、学校内にゴミが少なくなったこと、各学年の廊下、ロッカーの上がとてもきれいになっていること、マスク越しでも気持ちのいい挨拶ができていること。そんな、皆さんの嬉しい姿に触れることができた2学期でした。

さて、暗い情勢ではありますが、12月に入って素晴らしいニュースもいくつか聞くことができました。年度末配布の生徒会誌にも寄稿しましたのでまた読んでみてください。そこにも書きましたが、「夢を追い続けること」の難しさと素晴らしさを特に感じた年末でした。パラリンピックの父と言われる、ルードヴィヒ・グッドマンは、「失ったものを数えるな。残されたものを最大限活かせ」という言葉を伝えました。私たちはとにかく、後ろばかりを向きがちですが、失ったものを取り戻す努力だけではなく、今生きている中で最大の努力に舵取りを変えるだけで、新しい世界が見えてきます。皆さんの中にも失敗に悩み立ち直れない人が、もしかしたらいるかもしれませんが。でもあなたの目標とする未来に向けて今できることは何なのか。できなかったことを数えて悲観するのではなく、今やれることに夢を持つことこそ、生きることそのものかもしれません。

平成22年、世界で初めて小惑星の物質を持ち帰ることに成功した初代はやぶさは、往復の7年間、トラブル続きでした。この故障続きだった初代はやぶさに多くの改良が加えられ、この12月には、「はやぶさ2」が6年の運転を終え小惑星リュウグウから砂を持ち帰るなど、壮大なミッションを達成することができました。地球から3億4000万キロ離れた直径たった900メートルの小惑星に2回もタッチダウンできたこと、夢とロマンが詰まった宇宙計画を、夢で終わらせることなく実現したという事実が心に震えました。失敗しても決してあきらめなかったJAXAの会見では、「100点満点で1万点」と高揚した表情で語った担当者の目にうっすら浮かんだ涙は、私たちに伝えたい「諦めない気持ち」の表れであったと感じました。

明日から年末年始休業に入ります。1年間の総まとめとして自分の行動を振り返りながら、ぜひもう一度、皆さんの夢の実現に必要なことを、気持ち新たに考えて欲しいと思います。

1点連絡です

5月から数学でお世話になりました畑田典男先生は、本日までご退職となります。また、情報の授業の支援に入ってくださいました横田克己さんも、本日で任期終了となります。大変お世話になりました。

年末年始は人の移動が多くなり感染予防に関しても心配な面もあります。今年も行われる箱根駅伝に向け、関東学連が発表したキャッチフレーズを知っていますか？「応援したいから応援に行かない」今、皆さんに求められていることにもつながるかもしれません。大切な家族や友人のために、ずっと一緒にいたいから今はがまん、みんなで騒ぎたいから今は騒がない。こんな先を見通した思いやりも胸に、ご家族とともに穏やかなお正月を迎えられますよう、願っています。1月7日にまた健康に登校してきてください。